

2011年度 1 学期日本語「読む」J541授業報告

近藤 幸子

要 旨

本稿では、2011年度 1 学期に行われた日本語「読む」J541の授業内容を、学習経過を中心に報告する。この学習経過は、主として学習者の振り返りに基づくものである。そして、自律的な学習へと導く授業活動を考察する。

本授業では、読む力の向上に加え、自律的に読めるようになること、自律的に日本語の力を向上させる方策を考えることを目指した。こうした自律的な学習を目指すため、各回の授業の終わりに振り返りを書いてもらった。

振り返りには、学習者がその後の学習に活かせるような気づきが観察された。こうした気づきが生じるきっかけとなる授業活動として、学習者が気づきを意識化し、気づきに対してさらに振り返りができるような活動が必要であることが浮かび上がってきた。

【キーワード】 授業活動 振り返り 気づき 意識化 自律的な学習

A Report on the Japanese Language Course “Reading J541” at the 1st term in 2011

KONDO Yukiko

[Abstract] This is a report on the content and students' studying processes in “Reading J541” at the 1st term in 2011. I focus on observations made based on student reflections, and report on studying processes and study activities aimed at prompting autonomous study. The aim of this class is to improve reading abilities, autonomous reading, and consideration of strategies for improving Japanese ability. In order to achieve this aim, students wrote review sheets at the end of each class. According to these sheets, it can be said that activities which encourage students to be aware of noticing, and to review their awareness of noticing are necessary in this class.

[Keywords] class activities, review, noticing, awareness, autonomous study

1. はじめに

本授業は、筑波大学補講コースにおいて、2011年度1学期に「読む」500レベルの学習者を対象に行われた。500レベルは中級前期程度の段階にある。過去に筆者が担当した2010年度2、3学期の「読む」500レベルの授業を振り返ると、学習者が文章を理解する力は、いわゆる「中級前期程度」と想定されるレベルより、総じて高度な段階にあるという印象を受けた。

学習者は日本で生活している。そうした学習者にとって、読むという行為は日常的に行われる。したがって、内容を推測しながら読んで理解することが重要になる。さらに、日本語の力が一般的に向上することも求められる。

以上のような学習者の状況を念頭に置き、授業では、読む力を向上させ、自律的に読めるようになること、日本語の力を向上させる方策を自律的に考えるようになることを目指した。

2. 用語の定義

本稿では、学習内容を技能別に示す際、次のように「 」をつけた言葉を使用する。定義は次の通りである。

「知識」：語彙、文法、表現、文章の種類・構成、及び背景などに関する知識。

「練習」：音読や速読、文章を読む行為自体など、練習に当たる行為。

「理解」：文章の内容と構成を理解すること。

「考える」：背景知識を想起し、考えること。「理解」したことに基づいて内容を解釈し、考えを深めること。

「表現」：「理解」したことや「考え」たことに基づいて話すことや書くこと。

3. 授業の概要

以下、授業の目標、使用教材、授業の回数、クラスの人数について述べる。

3.1 授業の目標

本授業において中心となった目標は、文章に基づいた学習を達成することである。文章に基づいた学習とは、「知識」を習得すること、正確に「理解」し、「理解」を深め、「考える」こと、「表現」する力を向上させることである。この過程において、自律的に読めるようになること、日本語の力を向上させる方策を自律的に考えるようになることを目指した。

こうした自律的な学習を促進するためには、学習者が自身の学習を振り返るという行為が重要である。舘岡(2005)は「自己とたえず対話をしながら学ぶことは、より自律的な

学習となる」(p.166)と述べている。「自己と対話をしながら学ぶ」とは、自身の学習を振り返ることである。振り返ることを通じて、自身の学んだ点や課題となる点に気づけば、気づきを自ら活かして学習するという自律的な学習につながる。つまり、振り返るという行為は自律的な学習を促進するのである。したがって、振り返るという行為、すなわち振り返りを行うことも、本授業の目標と位置づけた。

自律的な学習が促進されれば、授業の外で、学習した「知識」、「理解」の仕方、「考え」方、「表現」の仕方を運用することにもつながるであろう。また、読むことが好きになることにもつながると推測される。これらの点を本授業の最終的な目標と考えた。

3.2 使用教材

本授業では4種類の主要教材と、内3種類の文章教材を軸にした補助教材を使用した。以下、主要教材と補助教材について述べる。

3.2.1 主要教材

主要教材とそれらを選択した理由、及び、学習目標は表1の通りである。

表1 主要教材・選択した理由・学習目標

教材	選択した理由	学習目標
(1) 説明と問題：読むための文法・文章に関する知識 ¹	<ul style="list-style-type: none"> 過去のクラスにおいて、これらの「知識」があまりなく、戸惑う学生が見られた。 文章の種類を問わず、必要になる文法の「知識」を、初めにまとめて学習すると効率がよい。 文章の種類や構成に関する「知識」があると、読む際に役立つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 実際に文章を読む前に、文章を読むために必要な「知識」の概要を知る。
(2) 短編小説：『おーい でてこーい』 星新一	<ul style="list-style-type: none"> 過去のクラスにおいて、小説が読みたいという希望があった。 短文が積み上がって文章が構成されていて、語彙の理解が「理解」につながりやすい。 内容について「考え」、多様な考察をすることが期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「知識」を確認し、正確に「理解」する。 文意を推測しつつ、「理解」する。 「理解」を深める。
(3) (3-1) 新聞記事：「日本『偉くなりたい』8%」(朝日新聞) ²	<ul style="list-style-type: none"> 「理解」に基づいた話し合いに発展しやすい。 各段落の重要な部分が取り出しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 内容を正確に「理解」し、重要な部分を把握する。 大意取りの「練習」をする。
(3-2) 新聞記事：「日本の高校生『自分に満足』24%」(読売新聞)	<ul style="list-style-type: none"> 教材(3-1)と共通する内容で、(3-1)とともに読むことにより、「理解」や「考え」が深まる。 	<ul style="list-style-type: none"> 感想や意見を「考え」、「表現」する。

	(3-3) 新聞記事：「ノーベル賞」（読売新聞「アトムとウランの時事わーど」より）	<ul style="list-style-type: none"> ・「ノーベル賞」という学習者にとって背景知識がある内容である。 ・(3-1)、(3-2)で意識した大意取りの「練習」ができる。 ・重要な部分や読む目的に合った部分を探しながら、時間をかけずに読める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読む目的に合った部分を速読により読みとって「理解」する。
(4)	随筆：『やがて哀しき外国語』（抜粋）村上春樹	<ul style="list-style-type: none"> ・教材(2)、(3)とは文章のジャンルと書き方が異なる。 ・誤った「理解」に気づくことが期待できる。 ・外国語で話すことについての内容で、学習者の日本語学習に役立つ。 ・批判的な読み方が期待できる内容である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材(2)、(3)で意識した読み方を踏まえ、語彙・文法や文章構成から、筆者の主張を正確に「理解」する。 ・意見を「考え」、「表現」する。

3.2.2 補助教材

文章教材（表1教材(2)、(3)、(4)）を軸に、次の補助教材を使用した。

- ①読む前に：各教材を読む前に、背景知識や関連知識を想起し、「理解」、「考える」こと、「表現」することを促進させるためのものである。質問に答えながら、クラスで意見交換をするという形をとった。
- ②宿題：各教材に含まれる「知識」の理解、「理解」、「考える」こと、「表現」を助けるために書くものである。次の回に学習する内容を宿題にして配布した。
- ③振り返りシート：その授業において、自身にとってよかったことと難しかったことを、各々2、3行で記入するものである。文字化することにより、自身が学んだ点や課題を意識化することを目的とする。J541-1、2クラスにおいて、第2回から第9回の授業の終わりに任意で記入、提出をしてもらった。提出されたシートには、毎回筆者が感想や気づきを促すと思われるコメントを書いて返却した。
- ④テスト：「知識」と「理解」を確認するため、小テストを2回、最終テストを1回行った。内容は、小テスト1回目が教材(1)と(2)の「知識」と「理解」、小テスト2回目が教材(3)の「知識」、最終テストが教材(4)の「知識」、「理解」、及び、初見の文章を「理解」し、「考え」を問うものであった。

3.3 授業の回数

全部で10回（1回75分）あり、内訳は、オリエンテーションが0.5回、教材(1)が1回、教材(2)が3.5回、教材(3)が2回、教材(4)が3回であった。

3.4 クラスの人数

全部で3クラスあり、各クラスの人数は、J541-1が23名、J541-2が11名、J541-3が10名であった。

4. 授業内容と観察されたこと

以下、文章教材である教材(2)、(3)、(4)の授業内容と各々の授業において観察されたことを述べる。

各教材における一つ目の項(4.1.1、4.2.1、4.3.1)では、授業内容と学習者の振り返りについて述べる。振り返りは振り返りシート(3.2.2③参照)の記述に基づいたものである。

一つ目の項にある表2、3、4の見方は、次の通りである(表2①~⑤参照)。

- ①内容数：振り返りシートにあった記述を内容別に分けた際の総数である。
- ②気づき：振り返りシートにあった記述において、気づきであると考えられる全ての記述に基づいている。気づきであると考えられる記述とは、学習を通して気づいた点、自身がすべき点などに言及した、深く考えた跡の見られる記述とした。こうした記述は、「～がわかった／難しかった」といった報告と考えられる記述や、単に「～が面白かった」といった感想とは、学習者がその時点で持った意識が異なっているとみなした。分類は筆者が行った。

〈内容と気づきの分類例〉

「言葉の意味が難しかったⁱが、文章の意味は大体わかったⁱⁱ。言葉の意味だけ考えないで、文章の意味を考えることが大切だと思ったⁱⁱⁱ。頑張ります^{iv}。」

→内容数 4 (下線部分と二重下線部分) と数えた。内、二重下線部分は気づきであると、下線部分は気づきではないとみなした。気づきの内容は「理解」に分類した。(尚、気づきでない記述の内容は、iを「知識」に、iiを「理解」に、ivを「その他」に分類した。)

- ③内容：気づきの内容を技能別に示したものである。
- ④記述：気づきとみなした記述を全てそのまま記載した。(A)などのアルファベットは学習者を示す。
- ⑤きっかけ：気づきのきっかけになったと推測される授業活動を示したものである。

二つ目の項(4.1.2、4.2.2、4.3.2)では、授業中や授業後に学習者から観察された様子を述べる。

4.1 教材(2)『おーいでてこーい』

4.1.1 授業内容と学習者の振り返り

授業内容、記述内容の数(内容数)、気づきは、表2の通りである。

表2 教材(2)の授業において観察された気づき

○ 日 目	授業内容	内容 ^① 数	気づき ^②		
			内容 ^③	記述 ^④	きっかけ ^⑤
1	「考える」:読む前における背景知識等の想起 「表現」:読む前に想起した背景知識等の発表 「練習」:音読 「知識」:言葉・文法の意味の確認	35	「練習」	自分の発音はすこし違いと思います。(C)	音読
			「知識」 「理解」	私には難しい言葉が多くて予習がなかったら、内容がわからなかったと思った。(D)	言葉の意味の確認
2	「知識」:言葉・文法の意味の確認 「練習」:音読 「理解」:文章のパート分け、内容理解、宿題の解答の確認	44	「知識」	難しい言葉を勉強して日本語のレベルがアップした感じがありました。(K)	言葉の意味の確認
			「練習」	文を速く読むこと。練習することが必要。(E)	音読
			「表現」 (答えの書き方)	問題の答え方が問題によって違う。注意しなければならないと思う。(F)	宿題の解答の確認
3	「練習」:音読 「理解」:内容理解、宿題の解答の確認 「考える」:内容解釈 「表現」:意見交換	41	「理解」	もう一度文章を理解できれば、違うところを直すことができます。(C)	宿題の解答の確認
			「考える」	最後、その文章は何を意味しているのかが理解できない。何のためにその文章を書いたのか。そういう問題がちょっと難しい。(F)	宿題の解答の確認 ・内容解釈 ・意見交換
				自分の答が簡単すぎだと思います。(G)	意見交換
				PartⅣの部分を考えたら、人間の人生を書いた感じがあります。(B)	意見交換
4	「練習」:音読 「表現」:意見交換 「知識」・「理解」・「表現」:テスト	32	「知識」 「理解」 「表現」	テストをしたら、わからないこともあるという気がする。だから、もっとがんばったほうがいいと思います。(H)	テスト
5	「知識」・「理解」・「表現」:テストのフィードバック	9	「知識」	テストで小さいミスがある。できそうなものをミスになって、ちゃんと注意しなければならない。やっぱり細かいところをはっきり覚えなかった。(F)	テストのフィードバック
			「理解」	テストいつものように全文を見な習慣を直さなければならない分かりました。(I)	テストのフィードバック

表2からは次のような傾向が見て取れる。まず、音読を毎回行ったが、授業の日数が浅いうちは、音読による自身の発音や読み方に対する気づきがあった。また、気づき全体の中では、宿題やテストのような書いたものをフィードバックすることにより生じた気づきが5件あり、比較的多かった。そして、意見交換がきっかけとなって生じたと推測される気づきが3件見られた。

気づきを書いた学習者を個別に見ると、学習者(F)は、2、3、5日目に気づきを書いていた。(F)は授業中、特に発言の多い学習者ではなかった。しかし、授業の中で内省し、気づきを次の学習に活かそうとしていたことが窺える。実際に教材(2)の授業において、(F)は内容を的確に「理解」し、その後の学習においても、的確な「理解」と「表現」に努め、達成度は高かった。こうした気づきの繰り返しが、学習を促進していたことが窺える。

一方、学習者(H)は、わからない点があったことには気づいたようだが、具体的にどのように頑張るかを示していなかった。これに対し、筆者は復習して「理解」し、「練習」することを勧めるコメントをした。しかし、実際には授業を欠席するなどして「頑張れ」ず、気づき実践されていなかった。このことは、学習者が課題を解決するための具体的な方策を考え、実践する機会が必要であることを示唆している。

因みに、振り返りシートにあった記述全体を見ると、「知識」を難しかったこととして挙げた割合は1日目が内容数の23%であった。その後、徐々に下がり、4日目には3%となっていた。「理解」を難しかったこととして挙げた割合は、2日目に18%でピークであったが、4日目には3%となっていた。

4.1.2 授業において観察されたこと

音読には予想以上に熱心に取り組む印象があった。

また、使用語彙がやや難しいことが予想されたが、予想通り、難しそうであった。言葉の意味が理解できるよう、言葉と意味を結びつける補助教材を使用し、意味を調べるだけでなく、文章を読みながら意味を推測することも指導した。全体的には、意欲的に取り組んでいる印象を受けた。

最後の段落の内容解釈については、初めは難しいという声があったが、最後には、的確な解釈が多様に見られた。この様子は、4.1.1で述べた点、すなわち、振り返りシートにあった記述全体において、回を重ねるにつれ、「理解」が難しいと述べる割合が少なくなった点にも反映されているようである。

4.2 教材(3) 新聞記事

4.2.1 授業内容と学習者の振り返り

授業内容、記述内容の数(内容数)、気づきは、表3の通りである。

表3 教材(3)の授業において観察された気づき

○ 目 目	授業内容	内容 数	気づき		
			内容	記述	きっかけ
1	〔授業内容〕「表現」：読む前に想起した背景知識等の発表 「知識」：言葉・文法の意味の確認			「練習」：音読 「理解」：内容理解 〔内容数〕0	
2	「知識」：言葉・文法の意味の確認 「練習」：音読 「理解」：内容理解、文章構成の理解	29	「知識」 「練習」	大声で記事を読んだ。漢字の読み方を忘れちゃって、ちょっと難しかった。復習をしましょう。(J)	音読
			「理解」	もっと読んだら、もっと理解できると思います。(C)	内容理解
3	「練習」：音読 「理解」：内容理解 「考える」：意見出し 「表現」：意見交換、意見発表	29	「理解」 「考える」	私は考えたことが間違うと思いました。次のははっきり読んで、理解して考えます。(C)	内容理解 ・意見出し ・意見交換
			「表現」	クラスで自分の考えを発表することができません。語彙が少ないので、恥ずかしい思いをする。(L)	意見発表
4	「知識」：テスト	4	なし		
5	〔授業内容〕「知識」：テストのフィードバック		〔内容数〕0		

表3では、3日目に「考える」ことや「表現」に関する気づきが見られる。例えば、学習者(L)の気づきを見ると、意見を発表するという「表現」の場で、発表が思うようにできない原因について気づきを得た様子が窺える。これは、3日目に、グループ内で意見を「表現」し、交換した意見から「考え」を深めていく活動や、クラスで意見を発表して「表現」する活動を行ったためであると推測される。

因みに、振り返りシートにあった記述全体において、3日目に難しかったこととして挙げられた内容の内容数に対する割合は、「表現」が17%、「考える」ことが10%で、他の内容より高かった。

4.2.2 授業において観察されたこと

教材(3-1)と(3-2)の理解は比較的順調であった。ただし、非漢字圏の学習者については、漢語が多く使用されている文章だったためか、理解しづらく感じている様子も見受けられた。また、「考え」で「表現」する活動では、学習者が少なからず難しさを感じていた様子が見受けられた。こうした様子は、4.2.1で述べた点、すなわち、振り返りシートにあった記述全体において、「表現」や「考える」ことが難しかったとした割合が高かった点に反映されているようである。

教材 (3-3) は、速読によって全体の内容がほぼ理解できた様子であった。しかし、読む目的に合った部分に注目して要約するという、書いて「表現」する作業が難しそうであった。

4. 3 教材 (4) 『やがて哀しき外国語』

4. 3. 1 授業内容と学習者の振り返り

授業内容、記述内容の数 (内容数)、気づきは、表 4 の通りである。

表4 教材 (4) の授業において観察された気づき

○ 日 目	授業内容	内容 数	気づき		
			内容	記述	きっかけ
1	「考える」: 読む前における背景知識等の想起 「表現」: 読む前に想起した背景知識等の発表、内容理解における意見交換 「練習」: 音読 「知識」: 言葉・文法の意味の確認 「理解」: 内容理解、宿題の解答の確認	25	「知識」	新しい文法はちょっとわかりにくいです。もう一度確認しなければならぬと思います。(L)	文法の意味の確認
			「理解」	文を読む時、全体の意味を理解できるのに、ポイントを見つけ間違ったところがある。(F)	内容理解
			「表現」	喋らないし、自分の意見が正しく説明しなくて、困ります。(C)	意見交換
			「理解」 「考える」 「表現」	この文章は予習しないでグループで話すのはあまりよくなかった。読むだけ大丈夫と思ったんですけど、まとめのは、やはり難しい。(A)	宿題の解答の確認 ・内容理解
2	「知識」: 比喩の確認 「練習」: 音読 「理解」: 内容理解、宿題の解答の確認 「考える」: 内容解釈 「表現」: 内容理解・内容解釈における意見交換	37	「理解」	自分は文章をちよく複雑に考えているような気がします。(I) 細かい点まで見るようによく読むことが必要だと思う。(E)	宿題の解答の確認 ・内容理解
			「知識」	比喩が使うことを勉強した。話す時や作文を作る時には、簡単な比喩を入れれば、話し、作文がわかりやすくなるので、比喩がいい方法だと思う。(G)	比喩の確認
3	〔授業内容〕「表現」: 意見交換のまとめ 「知識」・「理解」・「考える」: テスト 〔内容数〕 0 (振り返りシートを回収せず)				

表 4 からは、教材(2)、(3)の気づきに比較し、自身の課題に関する気づきが多く生じている傾向が見て取れる。これは、日本語の文章に慣れて、自身の課題が見えてきたこと、「理解」が正確でなかったことに気づいたことなどが理由であると推測される。

気づきのうち、学習者(C)の気づきを見ると、課題を解決するための方策が示されていなかった。これに対し、筆者は聞き手が理解しているかどうかを確かめながら、落ち着いて話すよう、コメントをした。しかし、実際には、文法的な誤りが多く、相手にスムーズに理解してもらえない様子であった。(C)は教材(2)、(3)でも気づきを書いていたが、解決に向けた方策は示しておらず、実際に、全体的に「理解」や「表現」がスムーズに進まない様子であった。このことは、学習者が課題の根本的な原因とそれに対処する的確な方策を考え、方策を実践する機会が必要であることを示唆している。

尚、振り返りシートにおける2日目の記述全体を見ると、よかったこととして「理解」を挙げた割合は内容数の27%であったのに対し、難しかったこととして「理解」を挙げた割合は19%であった。「理解」することが必ずしもスムーズに進まなかった様子が窺える。

4.3.2 授業において観察されたこと

全体的に、初めのうちは「理解」が難しいと感じている学習者が多いようであった。しかし、徐々に正確に「理解」できるようになった様子であった。

学習者からは、著者である村上の外国語学習に対する考えに共感し、実践してみたいという意見が多く聞かれた。一方、村上の主張に対し、批判的な意見を的確に「表現」するに至った学習者は、各クラスで数名程度であった。

本教材の授業は急いで進んだ感が否めなかった。これは、4.3.1で述べた「理解」がスムーズには進まなかった理由の一つであると推測される。時間が十分にかけられれば、より多くの学習者が正確に「理解」し、「考え」、批判的な意見などを「表現」することに辿り着けたように思われる。

5. まとめ

以上述べたように、気づきには、学習者がその後の学習に活かすことが期待できるものが多かった。しかし、気づきを書いていた学習者であっても、その後、その気づきに基づいた学習を行っていない、あるいは行おうとしても対処しきれない場合も見られた。せっかくの気づきとその後の学習に活かされるよう、気づきを意識化する機会、つまり、気づいた点に対処する的確な方策を考える機会や、方策が実践できたかどうかを振り返る機会も必要であると考えられる。

さらに、振り返りと授業における観察からは、次のような点が窺えた。教材(2)においては、時間をかけて読み込み、他者の「理解」内容や意見を聞くことにより、多少「知識」面で難しいと思われる文章教材も「理解」が促進されることが窺える。そして、自身が書いた解答などをフィードバックすることにより、気づきが多く得られることも示唆された。教材(3)においては、話し合いや発表などの機会が多く設けられれば、より「理解」が促進

され、「考え」が深まると推測される。また、それを通した気づきも得られることが窺える。教材(4)においては、文章を読む「練習」をして文章を読み慣れることや、「理解」が正確でないことに気づくことにより、自身の課題に関する気づきが促進することが窺える。

こうした点を踏まえ、今後の授業では、まず、文章教材から「知識」を得、「理解」し、「考え」で「表現」する活動、他者と「理解」や「考え」を交流させる活動、「練習」する活動、自身が書いた解答や行った発表などをフィードバックする活動を充実させていきたい。そして、そうした活動の中で、気づきが得られるような問いかけや、気づきに対する意識化を図る機会を増やす必要がある。

以上のような授業活動を実践し、読む力や日本語の力を自律的に向上させることができるよう、指導していきたい。

注

- 1 話し言葉と書き言葉の違い、指示語の使い方、接続表現、及び文章の種類と構成の概略をまとめた教材。アルク『留学生の日本語』とスリーエーネットワーク『みんなの日本語中級Ⅰ』を参考に、筆者が作成した。
- 2 2008年度1学期から2010年度1学期に高橋純子先生が使用していた教材である。2010年度2、3学期にも筆者が使用した。

参考文献

館岡洋子(2005)『一人で読むことからピア・リーディングへー日本語学習者の読解過程と対話的協働学習一』東海大学出版会